

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自己と他者を大切にできる豊かな感性を育て、確かな学力と主体的に自己実現・社会貢献できる生徒を育む

- 1 人生を自ら切り拓いていく人間性を育み人権意識を絶えず見つめ直す生徒・教職員の育成
- 2 「認め合い、尊重し、協働していく」学びを社会に活かし、人間性を醸成できる生徒の育成
- 3 「ともに学び、ともに育つ」教育を推進し、多様な学びの場を保障し相互理解できる生徒の育成

2 中期的目標

1 確かな学力の定着と学びの深化

(1) 「確かな学力」の育成と授業改善

ア エンパワメントスクールとして、「できた。わかった。やってみたい。もっとできる。」を感じる授業実践

(2) グローバル社会を生き抜く力の育成

ア 英語学習ツール等の活用や国際交流などの活動を通して、外国語教育と国際理解を深める教育の充実

(3) 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実

ア 専門人材や外部機関と連携し、生徒の教育的ニーズに応じた支援の提供

イ 教育庁、教育センター、支援学校と連携し、他校の支援教育体制のサポートも含めた、通級指導教室の充実

(4) 魅力づくりと効果的な情報発信

ア 特色を生かした魅力ある教育活動と、効果的な情報発信の充実

【評価指標】

○学校教育自己診断（生徒の肯定的回答）

学校に行くのが楽しい	目標 70.0%以上（R4 64.9%、R5 59.8%、R6 63.5%）
授業はわかりやすく楽しい	目標 70.0%以上（R4 62.8%、R5 58.8%、R6 62.6%）
エンパワメントスクールに入学してよかった	目標 70.0%以上（R4 71.1%、R5 67.5%、R6 68.8%）
生徒が努力したことをほめてくれる	目標 75.0%以上（R4 67.3%、R5 68.3%、R6 71.3%）

2 豊かな心と健やかな体の育成

(1) 人権・多様性を尊重する教育の推進

ア 障がい理解教育や支援学校との相互交流、通級指導教室の活動を核として、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進

イ 挨拶、遅刻、集団活動でのルールなど、生徒が公共のルールやマナーの重要性を自覚し規範意識が育まれるよう、組織的な取り組みを推進

(2) 中途退学・不登校の未然防止

ア 中高連携・人間関係づくり・基礎学力の充実に三本柱として学校運営・教育相談体制を充実

(3) 学びに向かう環境づくりの充実

ア 関係機関や専門家と連携した、貧困、虐待、ヤングケアラー等の生徒を取り巻く環境に応じた支援と学ぶ機会の確保

イ 生徒が主体的に校則の見直しや学校行事の企画などに関わる機会を拡充

(4) 健康教育の充実

ア 薬物乱用防止教育、がん教育、感染症予防や健康診断受診等、健康教育と健康の保持・増進にかかる取り組みを推進

【評価指標】

○学校教育自己診断（生徒の肯定的回答）

学校生活について、先生の指導は納得できる	目標 70.0%以上（R4 63.3%、R5 63.2%、R6 69.0%）
学校行事（遠足・文化祭・体育祭・修学旅行など）は楽しい	目標 75.0%以上（R4 74.9%、R5 67.2%、R6 70.3%）
命の大切さや社会のルールについて学んでいる	目標 75.0%以上（R4 70.9%、R5 69.3%、R6 72.5%）
学校では安心して生活できる	目標 70.0%以上（R4 63.8%、R5 58.9%、R6 64.1%）
いじめ等について困っていることがあれば、先生は寄り添って対応してくれる	目標 70.0%以上（R4 67.2%、R5 64.6%、R6 67.6%）
担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる	目標 70.0%以上（R4 67.9%、R5 62.3%、R6 67.2%）

3 将来をみすえた自主性・自立性の育成

(1) 自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進

ア 希望進路の実現に向け、自己の将来設計や自己実現について考えることができるよう、実践的なキャリア教育を推進

(2) 部活動の取り組み

ア 「部活動大阪モデル」の効果的な活用と、ペアリング以外の学校や地域クラブ等との連携を推進

【評価指標】

○学校教育自己診断（生徒の肯定的回答）

将来の進路や生活について、考えることがある 目標 75.0%以上（R4 71.1%、R5 68.9%、R6 70.3%）

先生の進路指導はわかりやすい 目標 70.0%以上（R4 66.0%、R5 65.6%、R6 68.2%）

○進路保障

就職（学校斡旋）希望者の進路実現率 目標 95%以上（R4 95.4%、R5 86.9%、R6 100%）

進学希望者の進路実現率 目標 95%以上（R4 94.4%、R5 98.2%、R6 100%）

4 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり

(1) 働き方改革

ア 教職員の意識改革と校務の効率化・見直して長時間勤務の縮減を図りつつ、生徒との時間や授業力向上のための時間を確保

(2) 教職員の資質・能力の向上

ア 校内外の研修等を活用して、自己の専門性の向上を図るとともに、社会の変化やニーズに対応した資質・能力を向上

【評価指標】

○学校教育自己診断（教員の肯定的回答）

各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している 目標 70.0%以上（R4 60.6%、R5 49.6%、R6 68.3%）

○時間外在校等時間

月 45 時間、年間 360 時間以下 目標 100%（R6 月 45 時間以下（87.3%）、年間 360 時間以下（68.3%））

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○項目 1. 3. 5 について【学校の満足度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1. 学校に行くのが楽しい」について、【生徒】65.0% (R6:63.5%)【保護者】59.0% (R6:63.5%)【教職員】59.7% (R6:62.6%) と【生徒】評価が上がっている。 ・「3. 授業は分かりやすく楽しい」について、【生徒】65.0% (R6:62.6%)【保護者】55.0% (R6:55.9%)【教職員】77.0% (R6:72.4%) と【生徒】【教職員】の評価が上がっている。一方で【保護者】は評価が下がっているが、現状に満足せずにさらに改良する意識を持っていると考えられる。 <p>※「2. 先生は子供を理解している」参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「5. 生徒が努力したことを褒めてくれる」について、【生徒】75.0% (R6:71.3%)【保護者】74.0% (R6:73.3%) と評価が上がっている。 <p>➡エンパワメントスクールとして、自己肯定感や授業参加への意欲を高めることができるのは、生徒・保護者のニーズと合致してきている。</p> <p>○項目 7. 8. 10 について【進路支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「7. 選択科目には学びたいことが準備されている」について、【生徒】69.0% (R6:66.2%)【保護者】62.0% (R6:64.4%) と【生徒】評価が上がっている。 ・「8. 将来の進路などについて考える」について、【生徒】73.0% (R6:70.3%) と数値が上昇している。 ・「10. 先生の進路指導はわかりやすい」について、【生徒】70.0% (R6:68.2%)【保護者】67.0% (R6:66.0%)【教職員】74.0% (R6:71.5%) と評価が上がっている。 <p>➡生徒が将来への目標を見定めるための支援を行い、生徒・保護者が求める選択授業を精選したことで、昨年度以上に生徒のキャリア教育が充実したものになっている。</p> <p>○項目 11. 19. 20. 21 について【安心安全な学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「11. 命の大切さや社会のルールについて学んでいる」について、【生徒】75.0% (R6:72.5%)【保護者】61.0% (R6:58.7%)【教職員】65.0% (R6:69.9%) と【生徒】【保護者】で評価が上がっている。 ・「19. 学校では安心して生活ができる」について、【生徒】65.0% (R6:64.1%) と評価が上がっている。 ・「20. いじめ等困っていれば先生は寄り添ってくれる」について、【生徒】70.0% (R6:67.6%)【保護者】63.0% (R6:61.1%)【教職員】82.0% (R6:78.0%) と評価が上がっている。 ・「21. 気軽に相談できる先生がいる」について、【生徒】73.0% (R6:67.2%)【教職員】79.0% (R6:78.9%) と評価が上がっている。 <p>➡教職員は安心安全な学校づくりに努め、学年やクラスにとらわれずに生徒と接する機会を増やした。2年めとなる複数担任制も功を奏している。生徒は集団生活における他者の尊重の姿勢を身につけ命の大切さを学んだ。</p> <p>○項目 28. 29. 33 について【学校への期待・関心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「28. 学校のHPを見ることが多い」について、【生徒】36.0% (R6:38.6%)【保護者】54.0% (R6:52.1%)【教職員】62.0% (R6:63.4%) と【保護者】評価が上がっている。 ・「29. 家の人に学校のことについてよく話す」について、【生徒】63.0% (R6:58.5%)【保護者】71.0% (R6:68.1%) と評価が上がっている。 ・「33. エンパワメントスクールに入学してよかった」について、【生徒】73.0% (R6:68.8%)【保護者】74.0% (R6:77.4%)【教職員】75.0% (R6:81.3%) と【生徒】評価が上がっている。 	<p>第1回：令和7年6月6日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転退学者の数を減らすための取組みとして増単位は良い。子供が勉強の先をイメージできるような取組みが必要。 ・進路の卒業後離職率が1名だったのは良いこと。今後は転職できる力も身につけさせる必要がある時代になってきた。先を見据えた指導をしてほしい。 <p>第2回：令和7年11月21日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年は進路決定率が低いですが、分析がしっかりしている。大学でも生成AIでエントリーシートを作成する学生が増えた。企業が求める人物像を理解させ育てるしかない。 ・生徒支援部は従来型のネガティブな「行動規制」的な側面があるが、ポジティブな「生徒の行動支援」ができています。地域活動を通じた地域との連携はよく頑張っている。 <p>第3回：令和8年1月23日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の評価が2年連続で上がっているというのは素晴らしい。取組みの方向性が正しかったということ。その中で「働き方改革」につなげて、時間短縮と取組みをどう結び付けていくのかの精査が必要になってくる。 ・進路に関しては、ターゲットによって%は変わってくるので、80%あれば問題ない。生徒が「自分ごと」として進路を考えるためには「体験」が必要。インターンシップなどの充実を考えてみたら？

<p>▶ホームページを見る生徒の割合が低い。保護者の学校に対する興味関心が増しており、充実した学校生活を送れていることで家庭での会話も増えていると考えられる。その結果最後の質問に対し、生徒の肯定的な意見が増えていると考えられる。</p> <p>◆総括 エンパワメントスクール8年めを迎え、生徒・保護者のニーズとそれに応える教職員の意識が合致してきた傾向がみられる。その結果として、生徒評価に関しては項目28以外の全ての項目において評価が上昇した。2年連続の上昇となり、今後は頭打ちとならないように、現在の取組みをしっかりとブラッシュアップしていく必要がある。また、保護者の項目において、概ね生徒の数値とリンクするような上昇傾向を示しており、家庭でのコミュニケーションがしっかりと取れていると推察される。一部評価の下がっている進路指導や学校行事について、情報発信をしっかりと行い、生徒の感想とリンクできるようにしていく。教職員の意識はある程度向上しているものの、項目4,6のように自分たちの取組みを見直す機会を作れていない。今後は生徒の満足度とリンクするよう、取組みを振り返り、次年度へ活かす活動を行う。 全体的に学校に対する評価は上がっているため、来年度もさらに生徒・保護者からの信頼を得られるように教育活動を行っていく。</p>	
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化	<p>(1)「確かな学力」の育成と授業改善</p> <p>(2)グローバル社会を生き抜く力の育成</p> <p>(3)一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実</p> <p>(4)魅力づくりと効果的な情報発信</p>	<p>(1)エンパワメントスクールとして、「できた。わかった。やってみよう。もっとできる。」を感じる授業実践。</p> <p>(2)英語学習ツール等の活用や国際交流などの活動を通して、外国語教育と国際理解を深める教育の充実</p> <p>(3) ア 専門人材や外部機関と連携し、生徒の教育的ニーズに応じた支援の提供 イ 教育庁、教育センター、支援学校と連携し、他校の支援教育体制のサポートも含めた、通級指導教室の充実</p> <p>(4)特色を生かした魅力ある教育活動と、効果的な情報発信の充実</p>	<p>(1)生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」65.0% [62.6%]</p> <p>(2) ・英語学習ツールの活用 [新規] ・オンライン国際交流3回[3回] ・海外研修1回[1回]</p> <p>(3) ア 専門人材等と連携した支援の提供3回[3回] イ 他校通級の体制整備 他校通級も含めた、通級で活用できるガイドブックを教育センターと連携して作成 [新規]</p> <p>(4)・頑張った生徒奨励の機会を充実280人以上[267人] ・学校ブログでの情報発信120回以上[141回] ・講演会の講師など、外部の関係者、団体からの情報発信5回[4回]</p>	<p>(1)生徒向け学校教育自己診断 ・「授業はわかりやすく楽しい」65% (○)</p> <p>(2)英語学習ツールBASE in OSAKAの活用により、生徒の興味関心を引き出した。授業アンケート「英語科の教材活用」等で、学校平均を超えた。(○) オンライン国際交流は、先方担当者の転勤により2回実施。7人参加。(○) 3期めとなる海外研修は、現地高校生・大学生との交流などプログラムも醸成されてきている。(○)</p> <p>(3) ア 指導に関する助言等をいただく機会を設けた。3回 (○) イ 通級指導書『アセスメント&指導・支援』の作成(第2版)により大阪の支援教育に大きく寄与した。(◎)</p> <p>(4)いづそうアワードとして表彰を行い、生徒の自己肯定感を高めた。[271名] (○) 学校ブログの配信により、広報活動に努めた。[139回] (◎) 教育委員会のSNS、中学校の合同行事の配信など外部からの広報の協力も受けた。[5回] (○)</p>

府立和泉総合高等学校

2 豊かな心と健やかな体の育成	<p>(1) 人権・多様性を尊重する教育の推進</p> <p>(2) 中途退学・不登校の未然防止</p> <p>(3) 学びに向かう環境づくりの充実</p> <p>(4) 健康教育の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 障がい理解教育や支援学校との相互交流、通級指導教室の活動を核として、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進</p> <p>イ 挨拶、遅刻、集団活動でのルールなど、生徒が公共のルールやマナーの重要性を自覚し規範意識が育まれるよう、組織的な取り組みを推進</p> <p>(2) 中高連携・人間関係づくり・基礎学力の充実を三本柱として学校運営・教育相談体制を充実 新入生の情報収集、在校生の情報提供等、中高連携の充実に向けた校内体制の整備</p> <p>(3)</p> <p>ア 関係機関や専門家と連携した、貧困、虐待、ヤングケアラー等の生徒を取り巻く環境に応じた支援と学ぶ機会の確保</p> <p>イ 生徒が主体的に校則の見直しや学校行事の企画などに関わる機会を拡充</p> <p>(4) 薬物乱用防止教育、がん教育、感染症予防や健康診断受診等、健康教育と健康の保持・増進にかかる取り組みを推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア 人権HRや講演会の実施2回 [2回]</p> <p>イ 生徒向け学校教育自己診断 ・「学校生活について、先生の指導は納得できる」70.0%[69.0%] ・「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」75.0%[72.5%]</p> <p>(2) 中学校訪問と情報提供の体制整備 不登校やヤングケアラー等の生徒支援に必要な情報収集と中学校への情報提供ができるよう、中高連携を進めるPTの立ち上げと、中学校訪問のマニュアルを作成 [新規]</p> <p>(3)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断 ・「学校では安心して生活できる」65.0%[64.1%] ・「いじめ等について困っていることがあれば、先生は寄り添って対応してくれる」70.0%[67.6%] ・「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」70.0%[67.2%]</p> <p>イ 生徒会活動を中心に、生徒が主体的に学校行事等に参画できる機会5回[4回]</p> <p>(4) 健康教育にかかる講演会の実施1回[1回]</p>	<p>(1)</p> <p>ア 講演会に加え人権HRを2回行った。特に現代の課題であるSNSの扱いでは生徒の関心が高かった。(○)</p> <p>イ 生徒向け学校教育自己診断 ・「学校生活について、先生の指導は納得できる」70% (○) ・「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」75% (○)</p> <p>(2)</p> <p>広報委員会を立ち上げ、中学校訪問の内容の精査を行い、魅力発信とともに入試後の生徒情報についていち早く聞き取り連携を取れるようマニュアル化した。これにより生徒支援の体制強化につながった。(○)</p> <p>(3)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断 ・「学校では安心して生活できる」65% (○) ・「いじめ等について困っていることがあれば、先生は寄り添って対応してくれる」70% (○) ・「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」73% (◎)</p> <p>生徒の校内における安心感を確保し、学びに向かう環境づくりの効果が確認できた。</p> <p>イ 体育祭・文化祭の企画から、学校説明会の運営まで5回の参画を行った。(○)</p> <p>(4)</p> <p>薬物乱用防止の講演により、生徒の健康に関する興味関心を高める取組みを行った。1回 (○)</p>
3 将来をみすえた自主性・自立性の育成	<p>(1) 自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進</p> <p>(2) 部活動の取り組み</p>	<p>(1) 希望進路の実現に向け、自己の将来設計や自己実現について考えることができるよう、実践的なキャリア教育を推進</p> <p>(2) 「部活動大阪モデル」の効果的な活用と、ペアリング以外の学校や地域クラブ等との連携を推進</p>	<p>(1)</p> <p>・就職(学校斡旋)希望者の進路実現率95%以上[100%] ・進学希望者の進路実現率95%以上[100%]</p> <p>(2) 部活動大阪モデルの活用、ペアリング以外の学校や地域クラブとの連携を継続</p>	<p>(1)</p> <p>・就職(学校斡旋)希望者の進路実現率100% (○) ・進学希望者の進路実現率96.3% (○)</p> <p>(2)</p> <p>水泳部や野球部、軽音楽部などがペアリング校以外の学校も含めた複数校と連携し公式戦出場などの生徒の活動を盛り上げた。(○)</p>
4 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり	<p>(1) 働き方改革</p>	<p>(1) 教職員の意識改革と校務の効率化・見直しで長時間勤務の縮減を図りつつ、生徒との時間や授業力向上のための時間を確保</p>	<p>(1)</p> <p>・全校一斉退庁日の啓発・徹底 ・時間外在校等時間：月45時間、年間360時間以下100% [月45時間55人/63人(87.3%)、年間360時間43人/63人(68.3%)] ・教員向け学校教育自己診断 「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」70.0%[68.3%]</p>	<p>(1)</p> <p>毎週水曜日に定時退庁を呼びかけるメール発信し、全教職員に啓発した。時間外在校等時間の月45時間58人/62人(93%)、360時間以下43人/62人(69.3%)と増加はしたが100%は達成できず。(△) 教員向け学校教育自己診断 ・「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」65% (△)</p>